



# 一月(大) 睦月 觜宿

(一月六日小寒の節より)  
月命己丑三碧木星の月  
暗剣殺束の方

旧 十一月大  
十二月小

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	金	みづのえうま	一白	○元日、年賀、初詣、歳旦祭、修正会 旧十二月大	廿二	友引	やぶる	牛	方よし	6.50	16.38	23.17	10.54
2日	土	みづのひび	二黒	○下弦、四時三〇分、初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀	廿三	先負	あやぶ	女	天おん	6.51	16.39	23.17	10.54
3日	日	きのえさる	三碧	福岡宮崎宮玉せせり、十方くれ入り	廿四	佛滅	なる	虚	大みう	6.51	16.40	23.17	10.54
4日	月	きのと	四緑	官庁御用始め	廿五	大安	おさん	危	神よし	6.51	16.40	23.17	10.54
5日	火	ひのえいぬ	五黄	初水天宮	廿六	赤口	ひらく	室	五む日	6.51	16.41	23.17	10.54
6日	水	ひのと	六白	小寒七時〇八分、六日年越し、公現祭、東京消防出初式、高崎だるま市、初亥	廿七	先勝	ひらく	壁	大みう	6.51	16.42	23.17	10.54
7日	木	つちのえね	七赤	七草、人日、初子、一粒万倍日、福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ	廿八	友引	とづ	奎	くま日	6.51	16.43	23.17	10.54
8日	金	つちのとし	八白	東京鳥越神社とんど焼、初葉師、学校始業、不成就日	廿九	先負	たつ	婁	十し	6.51	16.44	23.17	10.54
9日	土	かえとら	九紫	宵えびす、初寅、京都西本願寺報恩講(16日迄)	朔	佛滅	のぞく	胃	月とく	6.51	16.45	23.17	10.54
10日	日	かのと	一白	○朔一〇時三分、十日えびす、初金毘羅、初卯、一〇番の日、一粒万倍日 旧十二月小	二	先勝	たいら	畢	大みう	6.51	16.46	23.17	10.54
11日	月	みづのえう	二黒	○成人の日、鏡開き、蔵開き	三	友引	さだん	觜	母倉	6.51	16.47	23.17	10.54
12日	火	みづのとみ	三碧	初巳、天一天上	四	先負	とる	参	神よし	6.51	16.48	23.17	10.54
13日	水	きのえうま	四緑	三隣亡	五	佛滅	やぶる	井	大みう	6.50	16.49	23.17	10.54
14日	木	きのとひび	五黄	十四日年越し、大阪四天王寺どやどや、仙台どんと祭	六	大安	あやぶ	鬼	神よし	6.50	16.50	23.17	10.54

冠婚葬祭とは、わが国古来の礼法で、加冠、婚礼、葬礼、祭祀の四つを略して「冠婚葬祭」といわれる。冠に即したものを中心にして、その外に一般的なものは適宜に配置した。

【冠】これは、加冠(戴冠)の儀という男子の元服を代表にしたもので、人間が成長し、人格が形成されていく段階において行われ、数々の儀式的総称である。

一月の冠婚葬祭は「成人式」(二月第二月曜日)に極まる。これは、法的に新しく社会の一員に加わる満二十歳になった青年男女が、自覚してめでたく巣立つことを祝ふとする日として国民の祝日となっている。

【婚】婚姻、婚礼は、季節にほとんど関係がなく、寒中であれ暑中であれ、日柄さえよければ挙式するならわしであるが、農家では比較的ひまな一月に式を挙げることが多い。

【葬】生者必滅、たとえ王

15日	金	ひのえさる	六白	小正月、小豆がゆ、不成就日	七	赤口	なる	柳	●	6.50	16.50	23.17	10.54
16日	土	ひのと	七赤	やぶ入り、賽日、えんま詣り、真宗本派親鸞聖人忌	八	先勝	おさん	星	ぶく日	6.50	16.51	23.17	10.54
17日	日	つちのえいぬ	八白	○上弦八時二六分、防災とボランティアの日、秋田太平山三吉神社梵天祭、旧こと納め、旧針供養	九	友引	ひらく	張	ちう日	6.49	16.53	23.17	10.54
18日	月	つちのと	九紫	土用一時四三分、初観音	十	先負	とづ	翼	月とく	6.49	16.54	23.17	10.54
19日	火	かえ	ね一白	一粒万倍日	十一	佛滅	たつ	軫	十し	6.49	16.55	23.17	10.54
20日	水	かのと	二黒	二十日正月	十二	大安	のぞく	角	大みう	6.48	16.56	23.17	10.54
21日	木	みづのえう	三碧	大寒〇時二七分、初大師	十三	赤口	みつ	亢	大みう	6.48	16.56	23.17	10.54
22日	金	みづのと	四緑	黙阿弥忌、一粒万倍日	十四	先勝	たいら	氐	大みう	6.47	16.58	23.17	10.54
23日	土	きのえ	五黄	奈良若草山焼き、臘日、不成就日	十五	友引	さだん	房	大みう	6.47	16.59	23.17	10.54
24日	日	きのと	六白	○望一〇時四六分、初地蔵、東京泉鴨とげぬき地蔵尊大祭	十六	先負	とる	心	神よし	6.46	17.00	23.17	10.54
25日	月	ひのえうま	七赤	初天神、東京亀戸天神うそ替え、法然上人忌、三隣亡	十七	佛滅	やぶる	尾	くま日	6.46	17.01	23.17	10.54
26日	火	ひのとひび	八白	文化財防火デー、道元禪師誕生会、天理教本部春季大祭	十八	大安	あやぶ	箕	神よし	6.45	17.02	23.17	10.54
27日	水	つちのえさる	九紫	国旗制定記念日、小田原道了尊大祭	十九	赤口	なる	斗	●	6.45	17.03	23.17	10.54
28日	木	つちのと	一白	初不動	廿	先勝	ひらく	女	大みう	6.44	17.04	23.17	10.54
29日	金	かえいぬ	二黒		廿一	友引	ひらく	虚	くま日	6.43	17.06	23.17	10.54
30日	土	かのと	三碧		廿二	先負	とづ	井	くま日	6.42	17.07	23.17	10.54
31日	日	みづのえね	四緑	八せん始め、一粒万倍日、不成就日	廿三	佛滅	やぶる	井	くま日	6.42	17.07	23.17	10.54

者といえどもこれを避ける者はなく、そしてその命尽きるとき、季節を問うものでないことはもちろんである。従って葬儀そのものは、一月に大きな関係はないが、この月七日までのいわゆる「松の内」は仏式では葬儀を差し控えるならわしである。

【祭】暦とは切っても切れないのが祭祀、遠い祖先から伝わった「お祭り」の年中行事である。

年の初めの「元日」。一年間の出発点として、数々の風習が伝承されています。

初詣、年始回り、門松、鏡餅、若水、屠蘇、雑煮、おせち料理……等、地方により家庭により、多少の差異はあるが、ほとんどの人がこの日を祝う。

三日までを「三が日」といいます。その間の二日は初荷、初夢、書初め、仕事始め……など縁起を祝う。

七日は「七正月」といいます。十五日は「小正月」として、それぞれの習慣による祭事を行うが、七日の「七草がゆ」については、冬期のビタミン補給だとする合理的解釈もある。